

新国立劇場 2016/2017 シーズン演劇公演

かさなる視点—日本戯曲の力— vol.1

# 白蟻の巣

作◎三島由紀夫

演出◎谷 賢一

2017年3月2日(木)～3月19日(日)

新国立劇場 小劇場

「劇作家・三島由紀夫」を確立した名作戯曲

気鋭の演出家・谷賢一が挑む

新国立劇場ではシリーズ「かさなる視点—日本戯曲の力—」と銘打ち、昭和30年代に執筆され日本近代演劇の礎となった3つの名作を、30代の気鋭の演出家三人の手に委ね、2017年3月から3ヶ月間連続で上演いたします。

その第一弾として3月に三島由紀夫作『白蟻の巣』を上演します。三島が実際にブラジルを訪れた際に見た“白蟻の巣”に着想を得て執筆され、第二回岸田演劇賞を受賞した傑作です。ブラジルの珈琲農園を舞台とし、農園経営者夫妻とその運転手夫妻の奇妙で複雑な三角関係を描く中に、三島が戦後日本に抱いていた空虚感が色濃く顕れます。

演出にはDULL-COLORED POP主宰の谷賢一を迎え、安蘭けい、平田満ら魅力的なキャストでおおくりいたします。気鋭の若手演出家が描く三島由紀夫の世界にご期待ください。

【12月18日(日)チケット前売り開始 ☞ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当 藤沢 花

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当 茂木令子、伊澤雅子、小仲やすえ



新国立劇場

<http://www.nntt.jac.go.jp>

## ◎作品について

『白蟻の巣』は、三島にとって初の長編戯曲で、この成功により、劇作家としての地位が確立した作品でもあります。敗戦から10年後の1955年、青年座に書き下ろされた本作は、戦後の日本に空虚感を抱いていた三島の思いが色濃く顕れている作品です。三島が終生求め続けていたもの、三島にとってのこの作品の位置づけを考察しながら、谷賢一が放つ問題作。どうぞご期待ください。

## ◎あらすじ

ブラジル、リンス郊外の珈琲農園。元華族の農園主・刈屋義郎は、かつて心中未遂を起こした妻・妙子と運転手の百島健次を、彼特有の「寛大さ」でそのまま同居させていた。一年後、事件のことを承知で百島と結婚した啓子だったが、次第に嫉妬と猜疑心にかられるようになり、とある計画のもと、刈屋を遠く離れたサンパウロへと送り出す。まるで白蟻の巣のように四人の思惑が絡み合い、やがて奇妙で複雑な三角関係へと変化していく……。

## ◎演出 谷賢一からのメッセージ

昭和30年(1955年)に書かれた『白蟻の巣』は、劇作家としての三島由紀夫のデビュー作であると同時に、三島が終生、まさに市ヶ谷駐屯地で腹かつさばく直前まで考え続けた問題をダイレクトに扱っている。——敗戦から10年、これから日本人はどう生きるべきか？

「もはや戦後ではない」という言葉が人口に膾炙したのは翌年、1956年のことだったが、敗戦から70年余が経つ2016年の今でさえ、我々日本人はどうあるべきか、新しい答えを見出せていない。しばらくの間は金儲けに成功してチャラチャラしていられたが、その間、何一つ思想的な進歩はなかったように思う。

『白蟻の巣』を読むと、三島由紀夫に叱られている気持ちになる。そう長くない芝居だが、彼の魂がこもった本だ。全力で立ち向かい、その問い掛けに一矢報いてやりたい。

## ◎プロフィール

### 作◎ 三島由紀夫 (みしま・ゆきお)

---

本名・平岡公威(ひらおか・きみたけ)。1925年東京市四谷区(現新宿区)生まれ。学習院初等科から中等科及び高等科を経て、東京帝国大学法学部卒。卒業後、大蔵省銀行局国民貯蓄課に勤めたが9ヶ月で退職、作家として独立した。華麗な文体と、特異な心理分析、古典的美によって裏打ちされた作風で多くの作品を発表。代表作に戯曲『鹿鳴館』『近代能楽集』『サド侯爵夫人』『わが友ヒットラー』、小説『仮面の告白』『金閣寺』『潮騒』『豊饒の海』などがあり、ノーベル文学賞候補に何度も挙げられたことがある。

1970年11月25日、市谷にある陸上自衛隊東部方面総監部に乱入、自衛隊員に憲法改正への蹶起を促したが失敗、割腹自殺を遂げる。享年45。毎年11月25日には「憂国忌」が営まれる。

### 演出◎ 谷 賢一 (たに・けんいち)

---



1982年生まれ。DULL-COLORED POP主宰。明治大学演劇学専攻、ならびにイギリスUniversity of Kent at Canterbury, Theatre and Drama Study にて演劇学を学んだ後、劇団を旗揚げ。2013年には『最後の精神分析』の翻訳・演出で第六回小田島雄志・翻訳戯曲賞、ならびに文化庁芸術祭優秀賞を受賞。近年では海外演出家とのコラボレーション作品も多く、デヴィッド・ルヴォー、シディ・ラルビ・シェルカウイ、フィリップ・ドゥクフレらの作品に、翻訳・脚本・演出補などで参加している。

## 刈屋妙子 ◇ 安蘭けい(あらん・けい)

---



1991年、宝塚歌劇団に首席で入団。2006年、星組男役トップスターに就任、09年退団後も女優として舞台を中心に活動。退団後の主な舞台作品に『The Musical AIDA』『エディット・ピアフ』『MITSUKO～愛は国境を越えて～』『アントニーとクレオパトラ』『next to normal』『幽霊』『レディ・デイ』『CHESS THE MUSICAL』『漂流劇 ひよっこりひょうたん島』『スカーレット・ピンパーネル』などがある。『サンセット大通り』『アリス・イン・ワンダーランド』の演技に対して、第38回菊田一夫演劇賞受賞。新国立劇場には初登場となる。

## 刈屋義郎 ◇ 平田 満(ひらた・みつる)

---



早稲田大学在学中に「つかこうへい事務所」旗揚げに参加。舞台『熱海殺人事件』『蒲田行進曲』などに出演。1982年、映画『蒲田行進曲』で第6回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞、第7回報知映画賞最優秀主演男優賞受賞。2001年『ART』と新国立劇場『こんにちは、母さん』で第9回読売演劇大賞最優秀男優賞、14年『失望のむこうがわ』と『海をゆく者』で第49回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。06年に企画プロデュース「アル☆カンパニー」を立ち上げ精力的に活動中。最近の主な出演として、舞台『父よ』『星回帰線』、映画『愚行録』『光』、テレビ『忠臣蔵の恋』『代償』など。新国立劇場には『シュート・ザ・クロウ』以来の出演となる。

## 百島啓子 ◇ 村川絵梨(むらかわ・えり)

---



2002年、ダンス&ボーカルユニット「BOYSTYLE」で歌手デビュー。04年、主演映画『ロード88出会い路、四国へ』で女優デビューし、NHK連続テレビ小説『風のハルカ』ではヒロインを務め注目を集める。主な主演作に、映画『僕たちは世界を変えることができない』『人生、いろいろ』など、ドラマ『わが家』『荒野の恋』など。主な舞台として『歌姫』『ラスト・ファイブ・イヤーズ』『Some Girl(s)』『出発』『TOKYOHEAD』など。16年8月には主演映画『花芯』の公開、自身初の写真集『Miles Away』を出版した。新国立劇場では『たとえば野に咲く花のように』に出演。

## 百島健次 ◇ 石田佳央(いしだ・よしひさ)

---



モデルとして活動後、演劇を志し、2003年に北区つかこうへい劇団の研究生に。06年からは演出家蜷川幸雄のもとで数多くの舞台に立つ。その後、単身中国に渡り、現地のドラマに主要キャストとして出演。最近の主な出演として、舞台『ショーシャンクの空に』『マクベス』、映画『東京島』『64ーロクローンー後編』、テレビ『芙蓉の人』『しんがり～山一證券最後の聖戦～』など。新国立劇場では『エドワード二世』に出演。

## 女中きぬ ◇ 熊坂理恵子(くまさか・りえこ)

---



新国立劇場演劇研修所第三期修了。舞台を中心に活動。主な出演作は『ロックンロール』『誓いのコイン』『旅程』『おもひでぼろぼろ』『もとの黙阿弥』『本のない書店』『残花』など。他にも、あいテレビ『P.S. Letter』『道の旅人になる～スペイン、そして四国巡礼の旅～』などでナレーションもつとめる。新国立劇場では『長い墓標の列』に出演。

## 大杉安之助 ◇ 半海一晃(はんかい・かずあき)

---



オンシアター自由劇場を経て、1988年劇団オフオフ東京を結成。個性派俳優として精力的に活動。舞台のほか、映画、ドラマ、バラエティ番組などで活躍。主な舞台として、『明日にかけるはし』『素。』『ピースの煙』『桜の園』『フォトジェニック』『TRAIN・TRAIN』『ダブルアルバム』『ギターを待ちながら』『グッドバイ』『KAKOCHIYA』『マーキュリー・フアー』『対岸の永遠』など。新国立劇場では『温室』に出演。

## ◎マンスリー・プロジェクトについて

一人でも多くの方に気軽に劇場に足を運んでもらいたいと、“開かれた劇場”を目指す芸術監督の宮田慶子。その一環として、演劇講座あり、リーディングあり、トークショーありの、多彩な無料プログラムを用意し、その月々に関連した演劇公演に多角的にアプローチしています。

募集期間内に、新国立劇場ウェブサイト所定のフォーマットでのお申し込みが必要です。詳しくは、新国立劇場マンスリー・プロジェクトのウェブサイト (<http://www.nntt.jac.go.jp/play/monthly/>) か、情報センター(03-5351-3011(代))でご確認ください。

### 演劇講座「シリーズ『日本の劇』VII～IX」

講師: ふじたあさや(劇作家・演出家)

会場: 新国立劇場 情報センター

募集期間: 12月1日(木)～

#### VII 「近代戯曲以前」

日時: 2017年2月17日(金)18:30、18日(土)11:00

開国による近代化とともに、演劇にも近代化が求められた明治時代、我が国が持っていた演劇は、能、狂言、歌舞伎だけだった。「欧米には、普段しゃべっているみたいに台詞を言う芝居があるそうだ。それをやってみよう。」しかし……。

#### VIII 「戯曲が文学だったとすると」

日時: 2017年3月17日(金)18:30、18日(土)11:00

旧劇を近代化し、新劇を確立するために、文学者たちの果たした役割は大きい。「旧劇が新作を作る力を持ってないなら、おれたちが作るより仕方がない。」泉鏡花・森鷗外・真山青果・岡本綺堂・菊池寛・山本有三・久米正雄などの活躍。

#### IX 「リアルとリアリズムの間で」

日時: 2017年4月14日(金)18:30、15日(土)11:00

近代戯曲がとりあえずの目標に据えたのは〈リアル〉ということだった。だが、〈社会主義リアリズム〉の台頭は、その〈リアル〉に大きな揺さぶりをかけた。その中で真の〈リアル〉を求め続け、〈リアル〉を突き抜けた人々がいる。

### トークセッション「かさなる視点—日本戯曲の力—」

講師: 谷 賢一、上村聡史、小川絵梨子、宮田慶子

日時: 2017年5月13日(土)18:00～

会場: 新国立劇場 小劇場

募集期間: 2月9日(木)～

『白蟻の巣』『城塞』『マリアの首』の演出家たちが結集。日本戯曲の魅力や、お互いの作品、演出について、思う存分意見を交わします。視点はどこへ向かい、何を感じたのか? 宮田監督を交えてシリーズを振り返ります。

## ◎公演概要

【タイトル】 白蟻の巣

【スタッフ】	作	三島由紀夫	【キャスト】	安蘭けい
	演出	谷 賢一		平田 満
	美術	土岐研一		村川絵梨
	照明	松本大介		石田佳央
	音響	長野朋美		熊坂理恵子
	衣裳	前田文子		半海一晃
	ヘアメイク	鎌田直樹		
	演出助手	渡邊千穂		
	舞台監督	足立充章		
	協力	ブラジル大使館		
	芸術監督	宮田慶子		
	主催	新国立劇場		

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2017年3月2日(木)～3月19日(日)

2017年 3月	2 木	3 金	4 土	5 日	6 月	7 火	8 水	9 木	10 金	11 土	12 日	13 月	14 火	15 水	16 木	17 金	18 土	19 日
13:00			●	●						●	●						●	●
14:00					休演	●	★	●				休演	●	●	●			
18:00										●							●	
19:00	●	●						●	●						●	●		

★＝終演後、シアタートークあり

【前売開始】 2016年12月18日(日)10:00～

【料金】 A席6,480円 B席3,240円 (税込)

※「かさなる視点—日本戯曲のカー—」三作品通し券を12月18日から発売。

3月公演『白蟻の巣』、4月公演『城塞』、5月公演『マリアの首』A席をセットで正価19,440円のところ、

セット価格17,400円で販売。

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【その他チケット取り扱い】

チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット ほか

\* **Z席1,820円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。\* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。\* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【全国公演】

会場: 兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール TEL:0798-68-0255 日程: 4月4日(火)19:00、5日(水)13:00	会場: 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール TEL:0532-39-8810 日程: 4月8日(土)13:00
---	---

